

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### 湘北短期大学のSDGsについて ご紹介するニュースレターです

#### ～発行者からのお知らせ～

今年度から、Web サイト湘北 SDGs を開設し、授業や大学全体の取り組みを紹介しています。

ニュースレターでは、

Web サイトに掲載した記事の中から、学科の授業や部門ごとの活動を、カテゴリー別にとまとめて紹介していきます。

今後とも湘北短期大学は  
地域に根ざした教育機関として

**「Think Globally, Act Locally」**を  
合言葉に、社会課題の解決にむけて  
持続可能な未来の創り手を  
社会に送り出していまいります。

大貫繊維株式会社様の  
SDGs の取り組みは  
↓こちらの QR コードを読み取って  
公式 Web サイトをご覧ください



#### 今号の内容に関連する SDGs



# 湘北 SDGs

## 「SDGs と社会デザイン」特集

Think Globally, Act Locally.

2023 年度 第 8 号

(通算第 14 号)

今回の発行人 築瀬千詠

yanase@shohoku.ac.jp

学校法人ソニー学園 湘北短期大学 生活プロデュース学科

〒243-8501 厚木市温水 428 TEL:046-247-3131 FAX:046-247-3667

### 【授業紹介】

#### 「SDGs と社会デザイン」 大貫繊維株式会社様の取り組み

(2023 年 9 月)

#### 糸の町 半原から取り組むサステナビリティ

「SDGs と社会デザイン」(生活プロデュース学科 1 年生選択科目)は、今年度新規に開講した SDGs を学ぶ実践編の授業です。第 2 回では、大貫繊維株式会社取締役経営管理部長 豊島様、シルク課主任 関根様、技術課勤務で本学卒業生の天利様をお招きし、自社で取り組む SDGs についてお話を伺いました。

同社は、明治 27 年に神奈川県愛甲郡愛川町半原の地で創業、当初は絹の撚糸業としてスタートしましたが、戦後は大手メーカーや商社との業務提携により、テイジンテロン糸を開発、エースクラウンシリーズをはじめとする工業用ミシン糸のトップメーカーとして私たちの暮らしを支えています。現在は、中国やベトナムにも工場を展開しており、大手ファッションメーカーも、その品質の良さから、同社の糸を使っているそうです。

今回の授業では、撚糸から染色までのミシン糸の製造工程を詳しく学んだ後、同社の SDGs 達成に向けた具体的な取り組みについて伺いました。社内のペーパーレス化、CO2 や汚水の排出量の削減、地

下水の活用、再生ペットボトルを 100% 使用したエコミシン糸やボビンの開発、古紙でできた化粧箱の使用、規格外となった残糸の活用など、多様な取り組みを行っていることがわかりました。

授業後半では、同社がショッピングセンター等で一般向けに開催している、残糸を活用したワークショップを体験させて頂きました。学生たちは、規格外のミシン糸でできた組みひもを使い、手編みのキーホルダー作りに挑戦、20 分ほどで素敵な作品に仕上がり大満足でした。大貫繊維様が自社製品を廃棄することなく活用する姿勢にとっても感心した様子でした。

前期の「生活と SDGs」の授業では、残糸の使い道のアイデア出しを行い、卒業生の天利様を通じて同社にご提案しており、今回は豊島様からそのご講評も頂き、とてもよい振り返りにもなりました。  
(裏面につづく)



受講生の感想を紹介します。

● SDGs の話では、「SDGs を理解する。行動する。情報発信する。」とおっしゃっていたことが印象に残っています。この 3 つは、どれも欠けてはいけないと思いました。(K)

● 今回大貫繊維さんのお話とストラップ作り体験をして、SDGs の取り組みが 1 つの企業でこんなにもたくさんの目標を達成しようとしていることに驚いた。このように SDGs に力を入れた企業が増えることで目標達成に近づけるということを強く感じた。また、今回のように学校に来て SDGs について話を聞く機会があることでとても SDGs への関心が深まると同時に意識が高まったことで、生活の仕方について考えさせられた。(中略) 前期の SDGs の授業で得た知識に加え、具体的に取り組み内容を知ることが出来たので理解がとても深まった。(M)

● 製造工程の見直し、廃棄製品を無駄にせずワークショップを実施したり寄付をする、会社の中でも個人の SDGs の活動を記録し、報告し合ったりと会社全体でできる事を積極的に行っていて、私達も今まで SDGs を少しずつ学んできて身近な存在になってきた今、まずはしっかり自分が小さなことでも SDGs を考えて行動し自分が広めていくことも大切だと改めて感じました。(K)



(生活プロデュース学科 築瀬千詠)

## 【授業紹介】「SDGs と社会デザイン」社会デザインとアイデア創出のワークショップを実施

(2023 年 11 月)

「SDGs と社会デザイン」(生活プロデュース学科 1 年後期選択科目)では、ゲスト講師をお招きして社会デザインとアイデア創出のワークショップを実施しました。

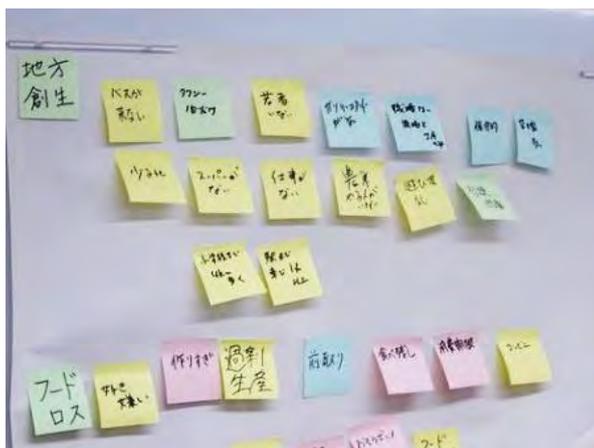
ゲスト講師の三尾幸司氏は、株式会社 JSOL で部長を務めるかたわら、一般社団法人社会デザイン・ビジネスラボ (SDBL) の事務局長として、これまでにトヨタ自動車、デンソー、環境省など企業や官公庁の DX や事業企画の支援、100 件以上のワークショップを実施している方です。

「社会デザインとは何か」からスタートし「アイデア創出」の方法を実践的に教えて頂きました。



初日は、三尾先生から説明を受けたあと、「地方創生」「フードロス」「サーキュラーエコノミー」「人間関係」「働く環境」「カーボン」という 6 つのテーマについて、思いつくキーワードを付せんを書いてどんどん貼っていきます。前期の SDGs の授業で少し扱ったテーマもありましたが、学生たちの多くは最初は手が動かず考え込んでしまう様子が見られました。それでも、最後は壁に貼った模造紙に様々な課題が出されました。

第 2 回目は、三尾先生から SCAMPER 法というフレームワークの説明を聞き、他のもので代用したり、組み合わせたり、適応させたりしてアイデア出しをしていきます。三尾先生によると、①質より量、②スピード重視、③仲間の発想を否定しないことが大切だそうです。前の週に選んだキーワードについて、課題と自分の興味関心を組み合わせるマトリックス図に整理した後、模造紙にまとめてグループごとに発表しました。(裏面につづく) 14-2



学生のふりかえりを紹介します。

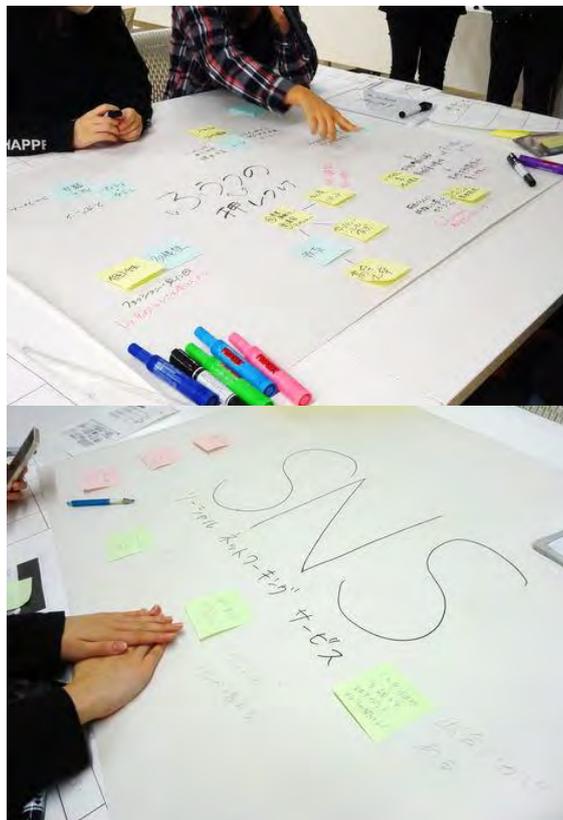
### 《ワークショップで学んだこと》

●「思いついた考えやアイデアはとにかく書き出す（頭から追い出す）こと、発言を記録に残すことでキーワードから連想されることや課題など新たに発想が生まれるということ。正解はないということ。」

(R)

●「グループでテーマを決め、そこから言葉と言葉を組みあわせ新しいアイデアを考えるとというグループワークをしてみて、友達とのコミュニケーションを取れると同時に自分で新しい考えを持つことが出来たり友達の考えたアイデアに共感したり、その考えを吸収しあったりすることが出来たことで物事を考える時の視野が広がった気がしました。」(Y)

●「2回のワークショップを経験して、具体的なスキルや知識を身につけることができました。ワークショップを行う際には、とにかく書き出すことが発想などにつながると学ぶことができました。合っているかわからず、何も意見やアイデアを出さずにしているのではなく、何でもいから思いついたことを書き出すことが良いワークショップにつながると、2回のワークショップを経験して感じました。書き出したことからチーム内で意見が広がり、よい意見交換ができたからです。」(M)



### 《これから身に付けたい力》

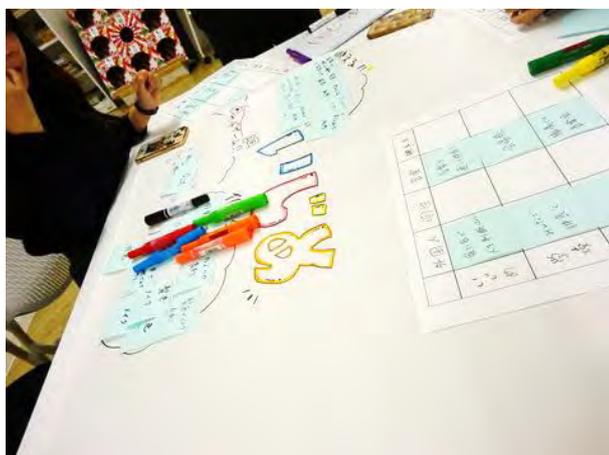


●「発想力とそれを積極的に言葉や紙に起こす、という力が欠けていると感じました。知識にも欠けている部分があると思ったので社会問題にも目を向けていきたいと思いました。授業や普段の生活を通して社会問題について知っているつもりだったけど、アイデアを出す時にあまり浮かんでこなかったので、日常生活の中で目を向けたり、ニュースをしっかり見たりしていきたいです。」(A)

●「物事を考えたり生産する上で、一点の視野から想像するのではなく、広い視野を持ち様々な視点から物事を考えるという思考は、自分自身に取り入れていきたい能力だと感じた。」

(K)

学生たちは、今回の体験を通じて、自分の周りのできごとへの関心が深まり、アイデア出しが楽しくなったようです。自分の考えを言語化し共有しあうことの大切さを改めて実感できた授業となりました。(生活プロデュース学科 築瀬千詠)



社会デザイン・ビジネスラボの Web サイトは  
←こちらの QR コードを読み取ってご覧下さい。  
今回のゲスト講師 三尾幸司先生が  
事務局長を務めています

(文責 築瀬)